

資料紹介

昭和十年撮影 法隆寺金堂壁画の写真原板

京都国立博物館の収蔵庫の一隅に、百枚余りの大型ガラス写真板が、人手に触れられることなく保管されている。この原板には法隆寺金堂壁画の第一号壁から第十二号壁までの全図が原色で記録されている。原板は二種類あり、表のように一組は半切大乾板六十五枚で、四色分解のポジ原板である。このポジ原板は、黄、赤、青、黒の四色分解で壁画を撮影した大乾紙のネガ原板から起こしたものである。そのポジ原板をさらに拡大して四色網板にしたものが、もう一組の大乾紙大乾板四十九枚である。

網原板から印刷原板を起こし、原色版印刷機で印刷すれば金堂壁画の原色版印刷物ができる。そのため、これらの原板を印刷紙に焼き付けるだけでは、写真として鑑賞することはできない。しかし、金堂壁画の原色の図版を再現しようとするれば、この原板を使うことが唯一の手だてになるのである。これは、確実に後世に伝えなければならぬ写真原板である。

昭和九年に法隆寺国宝保存事業部が創設され、法隆寺金堂解体をおこなうことになった。これにともない、金堂壁画の保存対策のためにはまず写真による記録に取りかかった。昭和十年のことである。

撮影は京都・便利堂の佐藤浜次郎である。金堂壁画の撮影は原寸でおこなうことになる。電気を引き込み、二百五十ワット電球四灯の照明を準備することができた。

原寸撮影なのでフィルムの総面積は壁画の面積より広くなければならない。フィルムは寸法が四ツ切の約四倍の全紙版(455×557mm)のイギリス製を使った。大壁は縦六横七の四十二枚、主な尊像はそれぞれ別に撮影したので各一―三枚ずつ多い。小壁は縦六横四で二十四枚に顔の部分を各一枚多く撮り、各面二十五枚ずつで、総枚数は三百七十四枚である。

カメラは、全紙規格の大型のものである。堂内の撮影のために、壁画とほぼ同じ寸法の木枠を作り、カメラが上下左右自在に枠内を移動できるように設備した。八月一日から準備が始められ、一壁面につきカメラの設置に一日、焦点合わせに二日、撮影と現像に各一日の日数を要した。十二壁全部の撮影を終えて引き上げるのは同年十月十五日であった。(この原板は文部省に納入され、現在、法隆寺と文化庁、奈良国立博物館に一組ずつ、計三組保管されている。)

この原寸写真とは別に、十二面ある壁画の全図がそれぞれ一枚の写真として撮影された。壁面全体を一枚の写真に撮ろうとすれば須弥壇上の仏像を移動させなければならないので、そこまで大がかりなことをして撮影することはかつてもなかったと思われる。電気照明を用いて金堂壁画の全図を撮影するものこの時限りである。そのうえ、この全図写真は、四色の原色分解写真として撮影されたのである。壁画十二面の全図写真は文部省の要請により、一千部を和紙に原色凸版印刷され、昭和三十年頃納入された。京都国立博物館にあるのは、この時に使われた原板である。

この金堂壁画の原板は、現在比較的良好な状態で保管されている。ことに、劣化しやすいカラー写真原板に較べて、モノクロームの写真原板は保存環境が整えば長期間の保存に耐えられる。原色分解写真の原板も、各々がモノクローム写真原板として保存されるので、色彩の再現性では経年変化を考慮する必要がない上に、耐久性はきわめて良い。

金堂解体にともなう壁画の保存対策は慎重をきわめ、昭和十四年に壁画の模写計画が立てられ、翌十五年より模写事業が始まった。これには当時第一線の日本画家たちが参加した。模写は、原寸写真を和紙にコロタイプ刷りし、壁画を見ながらその上に絵の具をおく方法である。ところが、この事業は戦争のため一時期中断、その後昭和二十二年に再開され、そして模写事業は未完のまま、同二十四年の火災のためにまた中断したのである。

昭和四十二年、あらためて金堂壁画再現事業が進められることになり、日本画家らが中心になってふたたび模写がおこなわれることになった。基本方針は復元模写として考えられ、火災前の印象をできるだけ再現しようというものであった。もちろん、模写すべき原本はすでに著しく様子を变えている。そのため、昭和十四年と同じに、原寸写真をコロタイプ版にしたものを和紙に刷り、その上に描くという方法を採用した。昭和二十四年以前の壁画の状態を見ている画家もいたし、加えて四色分解製版の原色印刷物が参考資料として使われた。模写における写真の実用的効用は、ここで大いに発揮され、注目されたのである。

付記 なお、この原板は取り扱いがたいへん難しい。現在の状態を

維持するためには、保管した状態にこのまま置くことが望ましいので、実物の閲覧は極力避けられたい。
(金井杜男)

分解ポジ原板

	十二号	十一号	十号	九号	八号	七号	六号	五号	四号	三号	二号	一号	壁色版
合計	1	2	2	1	2	1	2	1	3	3	2	1	黄
	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	赤
	2	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	3	青
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	黒
65枚	6枚	6枚	6枚	4枚	6枚	4枚	6枚	4枚	6枚	6枚	5枚	6枚	計

半切大 354×430 (mm)

網原板

	十二号	十一号	十号	九号	八号	七号	六号	五号	四号	三号	二号	一号	壁色版
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	黄
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	赤
	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	青
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	黒
49枚	4枚	4枚	5枚	4枚	4枚	4枚	4枚	4枚	4枚	4枚	4枚	4枚	計

大全紙大 591×697 (mm)

(原板の点検は便利堂 西岡淳雄氏にご教示頂いた。)